

第2回 芦原温泉駅周辺整備基本計画改定ワーキング部会、 芦原温泉駅まちづくりデザイン部会 合同会議

日時： 平成28年12月5日(月)14:00～

場所： あわら市役所 正庁

次 第

1. 開 会

2. 土木部長挨拶

3. 合同会議

・デザインコンセプトの要望について

・芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票の結果について

・その他(意見交換等)

4. 閉会

デザインコンセプト案絞り込み表 < 結果表 >

H28.11.1 (火)

3案選び、3点、2点、1点の点数をそれぞれに付ける

デザインコンセプト		イメージ (補足説明)	上位 3案
1案	おお やさ しぜん えき 大きくて優しい自然がこちよ駅	雄大で穏やかな北潟湖、あわらの景色が一望できる刈安山、大自然でありながら人と身近に寄り添ってきた、自然の心地よさを感じさせる駅とする。	5
2案	こうふく 幸福なふくいへのゲートウェイ うみ だいち ~ 海と大地のめぐみのふるさと ~	雄大な海と優しい湖、美しき山に清らかな川、豊かな実りをもたらす大地、そしていやしの温泉(ゆ)を感じさせる駅とする。	14
3案	だいち わ い ぜい えき あわらの大地に湧き出でる贅の駅	海・山・川、自然の恵みのおいしい食材、癒しの湯、大地からの恵みをうけて、何気ない時間が贅沢を感じさせる駅とする。	30
4案	たいせつ とき いや す えき 大切な時を癒して過ごす おもてなしの駅	旅で訪れる人には癒しとワクワク感を、ビジネスで訪れる人には安らぎと安定感を与え、時間がゆっくり流れるように、自然と食と温泉による最高のおもてなしが心に刻まれる駅とする。	10
5案	じだい とも ひび 時代が共に響きあい ひと えがお えき 人とまちがつながり笑顔になる駅	古くから受け継がれている歴史や文化、そして新たな芸術や文化が人やまちを通じて交流が深まり、楽しい思い出が笑顔になる駅とする。	7
6案	雄大な自然と歴史が織りなす癒しと贅の駅	未定	13
7案	癒しとおもてなしに包まれる心地よい駅	未定	11

独立行政法人
鉄道建設・運輸施設整備支援機構
鉄道建設本部北陸新幹線建設局
局長

様

(案)

H28.11.22 時点

北陸新幹線芦原温泉駅の整備に関する

要 望 書

平成28年12月 日

福井県あわら市

北陸新幹線 芦原温泉駅の整備について

北陸新幹線金沢・敦賀間の平成 34 年度末の完成に向けた貴機構のご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月 14 日の北陸新幹線の金沢開業後のあわら市への観光客の増加や、平成 28 年 6 月の柿原トンネル、同年 7 月の加賀トンネル（南）、竹田川橋梁の工事着工により、芦原温泉駅北陸新幹線開業への市民の期待も高まっております。

本市としては、福井県の北の玄関口である芦原温泉駅とその周辺が、市民、来訪者にとって、利便性が高く、賑わいが復活できるように計画し、嶺北の観光拠点となるばかりでなく、福井県を印象付ける大切な役割を担っていると考えております。

平成 34 年度の金沢～敦賀間の開業を 6 年後に控えた現在、当市では平成 18 年度に作成した「芦原温泉駅周辺整備基本計画」の改定を目的として「芦原温泉駅周辺整備基本計画改定委員会」を設立し、新幹線駅舎と駅前広場・アクセス道路等の公共施設の整備計画を再検討し、駅舎デザインコンセプトについても住民より広くアンケート調査を行いました。

また同時に、「あわら市地域ブランド戦略会議」を立ち上げ、あわらブランドを確立するとともに、北陸新幹線開通に向けた駅周辺のまちづくりの検討や、土地利用計画に特化した検討、ブランドイメージを重視した駅周辺のデザインを検討し、この度新幹線駅舎デザインコンセプトを取りまとめました。

つきましては、今後の駅舎建設にあたり、地域の新幹線駅舎への期待をご理解いただき、今回要望する駅舎デザインコンセプトが最大限反映されるよう特段のご配慮をお願いいたします。

平成 28 年 12 月 日

あわら市長 橋本達也

北陸新幹線 芦原温泉駅デザインコンセプト

だいち わ いで ぜい えき あわらの大地に湧き出る贅の駅

わたしたちのまちは、都会的なものはそう多くはありませんが、「あわら」にしかない魅力であふれています。

「あわら」の魅力は、海・山・川の大自然とその食材、湧き出る温泉、豊かな歴史文化で、いずれも暮らしの中に溶け込んでいて、とても身近な存在として感じられる所です。

わたしたちにとって、身近な存在であるこの雄大な景色と、美しい自然、新鮮な食、あたたかい温泉、なにげないひとときが、都会にはない「贅沢」だと感じられる駅にしたいという思いが込められています。

新幹線駅舎のデザイン要望にあたり、この駅舎をいつの時代も、癒しの雰囲気やおもてなしの心、居心地のよさを感じることができ、故郷を愛し続けられる心の拠り所としたいのです。

北陸新幹線 芦原温泉駅 空間イメージ



【利用者にやさしい駅舎】

駅利用者が迷わず安心して各方面に移動できるように、案内サインを充実した空間

ホームや改札から町並みの風景が見える開放的な空間

来街者が旅の余韻を持ち帰ることができるように、心地良さや安らぎが感じられる空間

【地域の特性に配慮した意匠の駅舎】

ラチ内外の様々な部位において、スギやマツ等の県産材を多用し、木材の持つ柔らかさや風合いが感じられる空間

冬の北陸の特徴である「灰色の空」をかき消すような、明るい空間

北陸新幹線 芦原温泉駅 各施設への提案

駅全般	・地域産材の利用
プラットフォーム	・自然光を活用した明るい開放的な空間の創出
休憩・待合室	・ラチ外から利用できる空間の創出
トイレ	・多目的利用を考慮し、広い空間を確保した多機能トイレ
コンコース	・自由通路(あわら市事業)との意匠の調和
高架下	・駐輪場等の利用検討

芦原温泉駅西口

芦原温泉駅前の様子 - エキューブや竹田川まで連続する新しいあわらの活気 -



駅前商店街

竹田川へ続く道と既存商店街の様子 - カフェやマルシェでにぎわう「新あわらストリート」-



竹田川

竹田川の様子 - おむすびスポットでひと休み。みんなで歩く楽しい河川敷 -



駅西口広場

駅前 100 畳座敷の様子 - ギネスに挑戦！新しいあわらの顔でかるたイベント、符合、ミニライブ -



市街地空き家エリア

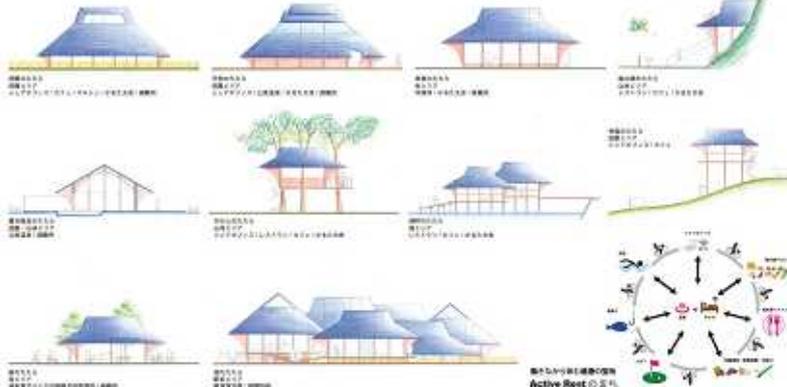


空間を使いこなす
空き家をリノベーションしてまちに賑わいを

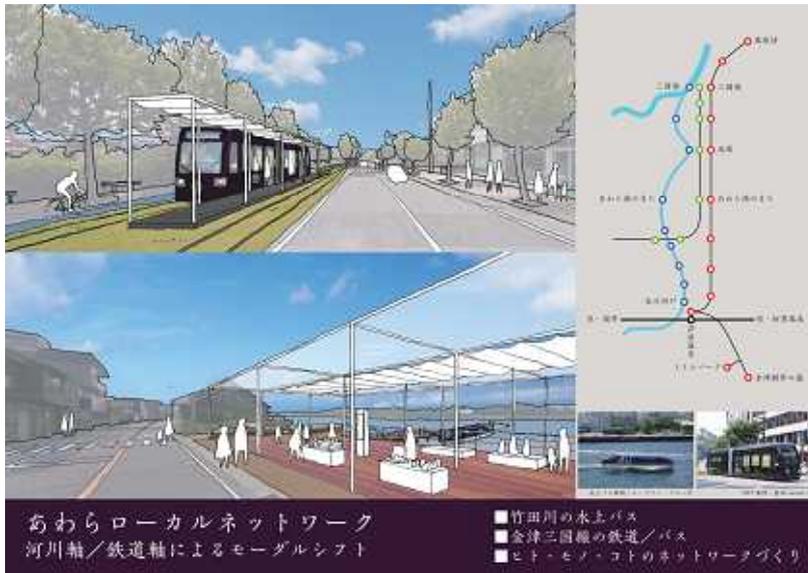
- SOFT：新しい事業づくり
- HARD：リノベーションまちづくり
- OS：まちを運営する仕組みづくり

今後の検討提案

Active Rest
～たたら屋根のまち～



今後の検討提案



あわらローカルネットワーク
河川軸／鉄道軸によるモデルシフト

- 竹田川の水よバス
- 金津三國線の鉄道／バス
- ヒト・モノ・コトのネットワークづくり